

目次

第 1 章 熱方程式	2
1.1 熱方程式の発生	2

関数空間上の写像 F と関数 $u(x_1, \dots, x_n)$ に対して,

$$F\left(x_1, \dots, x_n, \frac{\partial u}{\partial x_1}, \dots, \frac{\partial u}{\partial x_n}, \dots, \frac{\partial^2 u}{\partial x_1^2}, \dots, \frac{\partial^2 u}{\partial x_i \partial x_j}, \dots, \frac{\partial^2 u}{\partial x_n^2}, \dots\right) = 0 \quad (n \geq 2)$$

を偏微分方程式という.

(1) F に x_1, \dots, x_n の項がない場合, 線型という. x_1, \dots, x_n は関数空間上の定数と思えるため?

(2) 1 階の線型偏微分方程式を移流/輸送方程式 (**advection / transport equation**) という.

(3) 2 解の線型偏微分方程式について, $\sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^n a_{ij} \frac{\partial^2 u}{\partial x_i \partial x_j}$ 部を主要部という.

主要部の係数 (a_{ij}) が定数の場合を考える. 適当な変数変換によって, 係数行列 $A := (a_{ij})$ を, 対角成分が $0, \pm 1$ の対角行列にすることができる. u に C^2 級を仮定するとき, (a_{ij}) は対称行列であるため, 固有値は全て実数となる.

(1) A が正則で, 全ての固有値が同一符号であるとき, 主要部は $\frac{\partial^2 u}{\partial x_1^2} + \dots + \frac{\partial^2 u}{\partial x_n^2}$ と表せる. これを楕円型という.

(2) A が正則で, ただ一つの固有値のみ符号が異なるとき, 主要部は $\frac{\partial^2 u}{\partial x_1^2} + \dots + \frac{\partial^2 u}{\partial x_{n-1}^2} - \frac{\partial^2 u}{\partial x_n^2}$ と表せる. これを双曲型という.

(3) A が正則で, 上記以外の場合, 主要部は $\left(\frac{\partial^2 u}{\partial x_1^2} + \dots + \frac{\partial^2 u}{\partial x_m^2}\right) - \left(\frac{\partial^2 u}{\partial x_{m+1}^2} + \dots + \frac{\partial^2 u}{\partial x_n^2}\right)$ と表せる. これを超双曲型という.

(4) A が非正則であるとき, これを放物型という.

例 0.0.1.

(1) 楕円型方程式 $\frac{\partial^2 u}{\partial x_1^2} + \dots + \frac{\partial^2 u}{\partial x_n^2} = 0$ を potential 方程式, または Laplace 方程式という.

(2) 双曲型方程式 $\frac{\partial^2 u}{\partial x_1^2} + \dots + \frac{\partial^2 u}{\partial x_n^2} = \frac{\partial^2 u}{\partial t^2}$ を波動方程式という.

(3) 放物型方程式 $\frac{\partial^2 u}{\partial x_1^2} + \dots + \frac{\partial^2 u}{\partial x_n^2} = \frac{\partial u}{\partial t}$ を熱方程式・拡散方程式という.

第 1 章

熱方程式

1.1 熱方程式の発生